

### 第3章 外部評価委員会の講評



## 1. 外部評価委員会の講評

外部評価委員会における講評は以下のとおりである。

なお、審議の詳細については本書の参考資料－1に議事録を掲載している。

平成28年度 土木研究所外部評価委員会 全体講評

### 【中長期目標期間における研究開発の目標達成】

第3期中長期目標期間に実施した研究は、計画通り目標が達成された。また、学術論文等の成果の公表、成果普及に向けてマニュアル類の作成、講習会の実施等についても数多く報告され、十分な成果を得た。

### 【外部評価委員会の評価結果の研究への反映】

外部評価委員会は、研究の目標達成のため、中長期期間の当初から厳しい評価と議論を行ってきたが、土木研究所は委員会の評価結果を受け止め、毎年度の取り組みに反映し、研究がブラッシュアップされていく過程が認められた。その結果、十分な研究成果が得られた。

新しい中長期目標期間においては、第3期の評価結果も踏まえ、以下の取り組みを期待する。

### 【研究の目標】

中長期期間で研究を実施する過程で、新たに得た知見や情勢の変化などから、当初立てた目標から到達点が変わる可能性があることも見据えて研究に取り組むこと。その際、定量的な目標設定についても検討を行うこと。

### 【他機関との連携】

研究成果が十分活用されるためにも、今後も引き続き国総研や行政との十分な連携をすることが重要である。また、他の関連する研究開発法人や大学とも研究連携を進めること。

### 【研究成果の公表・普及】

開発した技術の普及にあたっては、学術論文等の取り組みをはじめとした研究面での科学的な裏付けが重要である。マニュアル類は、対象や適用条件の明確化、社会情勢との対応、従来のマニュアル類との関係、入手方法等含めて、各行政機関等とも調整を行いながら、より体系化をすすめること。また、土木研究所取り組みを、一般の方にもわかりやすく伝える努力をすること。

### 【人材の育成】

ポスドクなどの若手研究者が、土木研究所の目標達成に貢献している。若手研究者のキャリアパス等に配慮し、研究者が自由に研究できる素地を整えてほしい。

### 【国際貢献】

土木研究所の国際的な貢献が認められるが、日本の技術を国際的にどう展開していくのか検討を進め、国際規格やISO等への反映の取り組みをアピールすることが重要である。

## 2. 土木研究所の対応

外部評価委員会で頂いた講評を踏まえ、第4期中長期目標期間においても、土木技術に対する社会的要請、国民のニーズ及び国際的なニーズを的確に受け止め、技術的問題解明や技術的解決手法等の研究開発を実施し、成果の創出により社会への還元を果たしてまいりたい。

その際、長期性、不確実性、予見不可能性、専門性等といった研究開発の特性を十分に考慮し、研究の進捗や評価委員会等の結果も踏まえながら研究計画の具体化・見直し等についても随時検討を実施していく。

また、研究開発成果の最大化に向けて、国総研や行政等の関係機関との連携・分担について検討を行い、マニュアル類の体系化、成果の公表の方法、技術の国際展開の取り組みについても、研究成果がより効果的に社会実装されるよう、関連した基準類への反映等に向けて引き続き積極的な取り組みを推進していきたい。さらに、若手研究員をはじめとした研究員の能力向上、意欲向上を促し、人材育成に努めていく。